

かくいやま めがやま

鹿咋山（女鹿山）と古墳群（播磨風土記を彷彿させる景観）



鹿咋山（女鹿山）

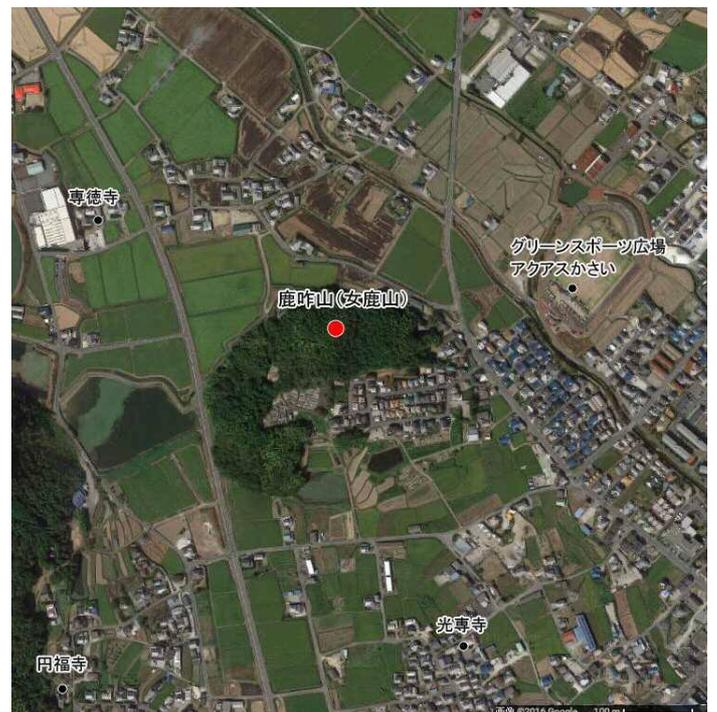


上：6号墳、下：21号墳

鹿咋山(かくいやま)は、『播磨国風土記』の中修布里の記述に出てくる。応神天皇が修布里に狩りにやってくる。すると山中で舌を噛んだ白鹿と遭遇したので、この山を鹿咋山と呼ぶ。これと同じような伝承が「宍(しさね)郡条」にもある。伊和大神が国づくりを終え国境を定めるため巡幸していると、舌を出した大きな鹿と遭遇するというものである。鹿咋山は女鹿山(めがやま)(北条町黒駒・女鹿山自治区・西上野町)に該当すると考えられている。

女鹿山古墳群は、22基の中期古墳群である。女鹿山6号墳、21号墳ともに墳丘の大半が破壊され芳しい保存状態ではないが、国内で生産がはじまったばかりの須恵器(初期須恵器)が出土した古墳として特筆できる。このようなことから、有力な豪族の古墳であるといえる。

このように、鹿咋山周辺は播磨風土記の時代を彷彿とさせる景観を現在も引き継いでいる。



出典：古墳が語る播磨（神戸新聞総合出版センター発行）、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP

ふるさと兵庫を構成する主要な景観 <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな自然景観 <input type="checkbox"/> 自然・緑あふれる農山村景観 <input type="checkbox"/> 表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 <input checked="" type="checkbox"/> 地域固有の文化的景観	所在地	加西市西上野町、北条町黒駒
	百選等実績	
	祭礼、行事等	
	関係人物	
	活動団体等	
関連する景観	北条住吉神社、酒見寺、北条の宿（景観形成地区）	